



2020年3月期決算及び 2021年3月期業績予想の概要

本資料は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の開催を見送りました決算説明会に代わるものです。
内容は5月15日に発表いたしました決算短信に準拠します。

社長メッセージ

この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様、及び感染拡大により困難な生活環境を強いられている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今回のコロナ禍に際し、当社におきましても、感染拡大防止のため、例年開催しております決算説明会を今年度は見送ることといたしました。

世界規模で「変わらない」生活が難しくなっていることを実感する今ですが、三井製糖は「変わらないために、変わることを」を標榜してきました。私たちが守る「変わらない」とは、安全・安心な製品をお届けし、皆様の食の楽しみ、心身の健康といった豊かなくらしに貢献することです。

コロナ禍はもちろん、少子高齢化や人口減少といった厳しい事業環境下においても「変わらない」使命を全うするため、当社は大きな変革の期にあります。ここ数年力を入れてまいりました、海外をはじめとした投資や成長領域の事業拡大は、着実な進展を見せています。

また、先般発表しました大日本明治製糖株式会社との経営統合、及び日本甜菜製糖株式会社との資本業務提携に向けた協議開始につきましても、この経営方針の一環であり、精製糖業界に長年携わってきた3社が培ってきたノウハウを結集し、国内供給体制の基盤を一層強固なものにするとともに、国際競争力を強化して企業としての成長を図るものです。

砂糖事業においても、新規事業においても、食を通じて皆様の健康や、多彩なライフスタイルに貢献する、という当社の使命は変わりません。多様化する皆様からのご要望、社会からの要請に迅速に対応し、変化が常態化した環境の中でも、ずっと選んでいただける企業であり続けてまいります。



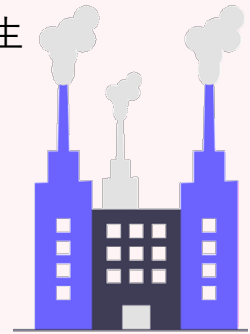
目次

- はじめに
 - 新型コロナウイルス感染症の事業への影響
- 2020年3月期決算概要
 - 2020年3月期決算
 - 売上高
 - 営業利益
 - 親会社株主に帰属する純利益
 - キャッシュ・フロー
 - 利益推移
 - 財務推移
 - 株主還元策
- 2021年3月期業績予想
 - 2021年3月期事業計画
 - 売上高
 - 営業利益
 - 親会社株主に帰属する純利益
- セグメント別の主な施策
 - ① 国内砂糖
 - ② フードサイエンス・ニュートリション
 - ③ 海外事業
 - ④ その他
- 持続的発展のための取り組み
- 統合について
- ご質問はこちら



事業への影響

- 新型コロナウイルス感染症の影響で需要の内容に変化
影響はプラス面（家庭用増）、マイナス面（業務用減）の両面で発生
- 砂糖は日常生活に不可欠だが、土産物や外食など『ハレの日』の
需要は減少、全体としては販売減が予想される。
特に上半期を中心に 前期比 3~4%程度の販売量減少の可能性。
ただし通期での影響は一定程度緩和されると予想



対応方針・施策

- 感染予防策を徹底の上、生産供給体制を維持
- 生活必需品として安定供給継続のため、不測の事態に備え在庫を積み増し
- 生活様式、消費パターンの変化を想定
需要構造の変化に対応できる柔軟な生産販売体制の構築や、
糖種・容量・包材等の見直しを急ぐ



はじめに

新型コロナウイルス感染症の
事業への影響

決算サマリ（前期比）

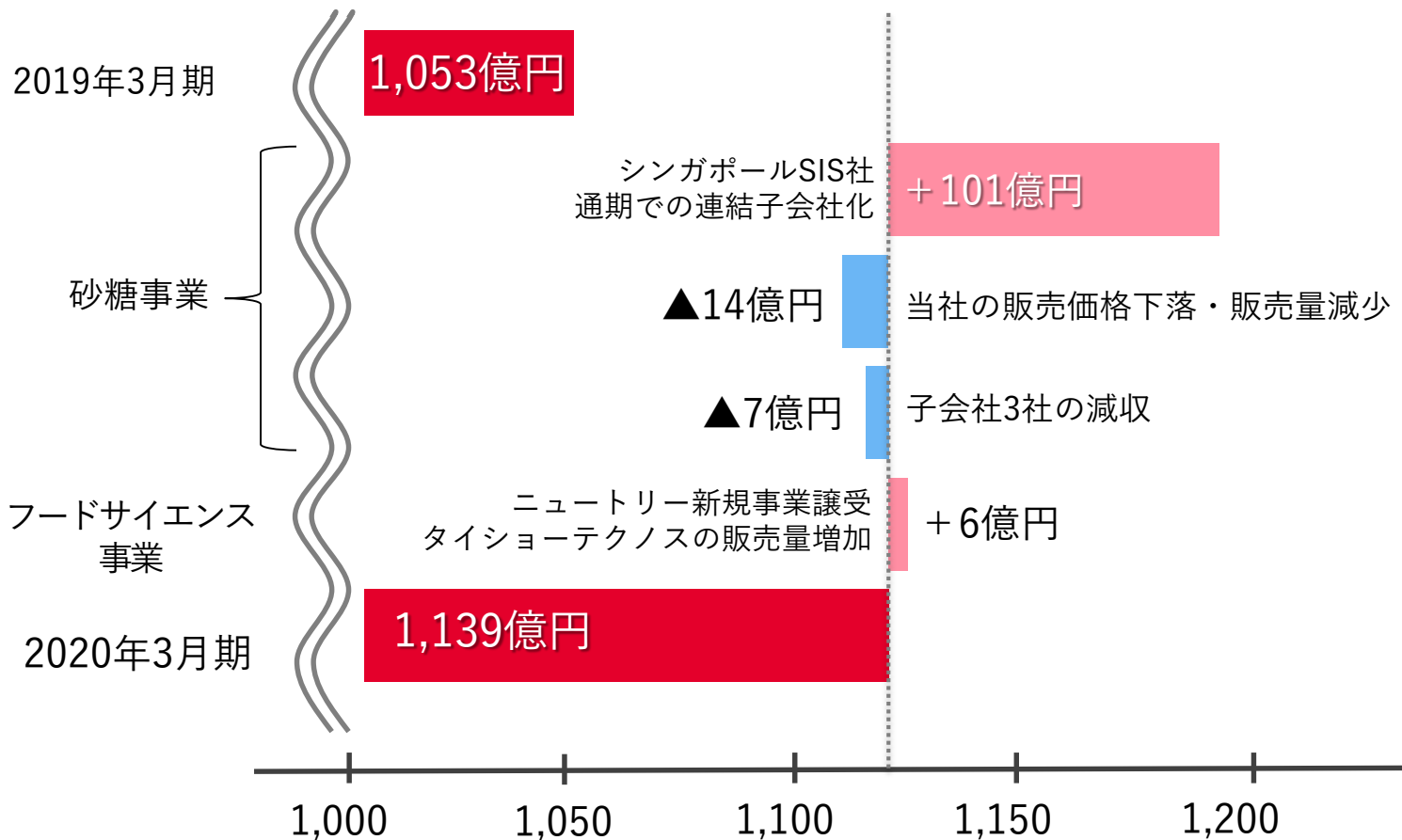


- 営業利益： + 11億円（主な内訳：砂糖事業 +9億円、フードサイエンス事業 +2億円）
砂糖事業は、子会社の減収、北海道糖業の重油流出事故の影響等の影響があるも
当社の原料調達コスト削減が奏功し増益。
フードサイエンス事業は、ニュートリー新規事業譲受等により増益。
- 営業外損益： ▲ 64億円
FTYロイヤリティー仲裁部分に係る収益認識を行わなかった事を主因として▲61億円。
粗糖相場低迷によるタイ関係会社の業績悪化、それによる固定資産減損処理により
持分法投資損益▲3億円。
- その他： 2019年3月期閉鎖の長田工場等の解体工事費用▲4億円、
外国上場株式評価損▲2億円発生。

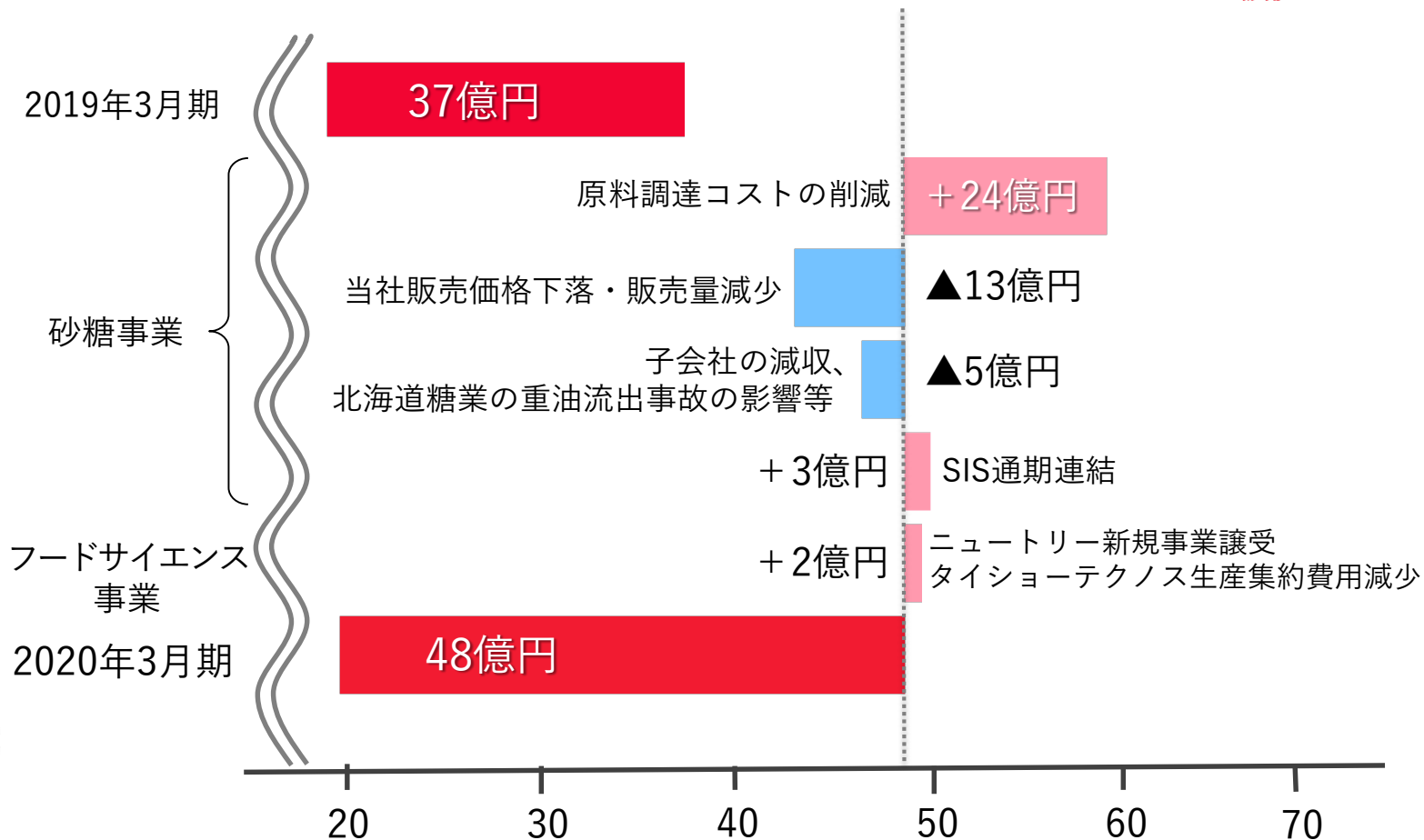
(億円)

	2020年3月期	2019年3月期	増減
売上高	1,139	1,053	+ 86
営業利益	48	37	+ 11
売上比	4.3%	3.6%	
経常利益	50	103	▲53
親会社株主に帰属する当期純利益	24	69	▲44

決算概要

2020
年3月期
売上高

決算概要

2020
年3月期
営業利益

決算概要
**2020年3月期親会社株主に
帰属する当期純利益**

2019年3月期

69億円

 営業利益 **+11億円**
▲61億円

 FTYロイヤリティーに関し、仲裁で
疑義が提起された部分は収益認識せず

▲3億円

 粗糖相場低迷によるタイ国関連会社の業績
悪化、固定資産減損による持分法投資損失

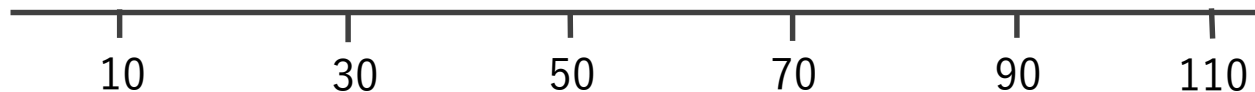
▲5億円

特別損益（岡山・長田解体費用ほか）

 のれん償却等 損金不算入項目の増加に
より税効果の改善は13億円に留まった

+13億円

2020年3月期

24億円




決算サマリ（キャッシュ・フロー前期比）

営業活動 : + 112億円
税金等調整前純利益の増加による。

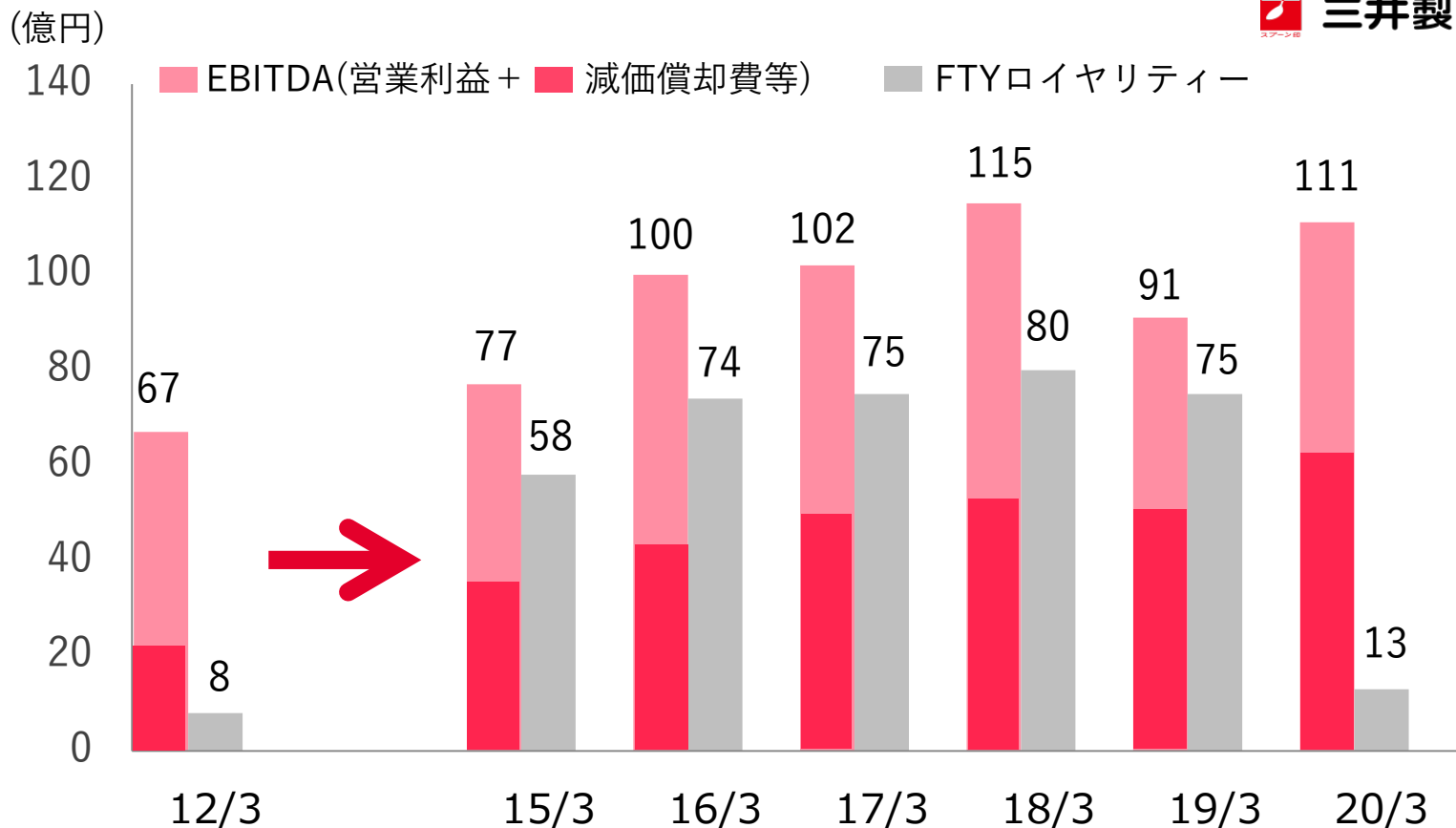
投資活動 : ▲ 71億円
設備投資等

財務活動 : ▲ 34億円
配当金の支払、自己株式の取得による。

(億円)

キャッシュ・フロー	2020年3月期	2019年3月期	増減
営業活動	112	121	▲9
投資活動	▲71	▲207	+135
(フリーキャッシュ・フロー)	40	▲86	+126
財務活動	▲34	▲11	▲24
EBITDA※	111	91	+20

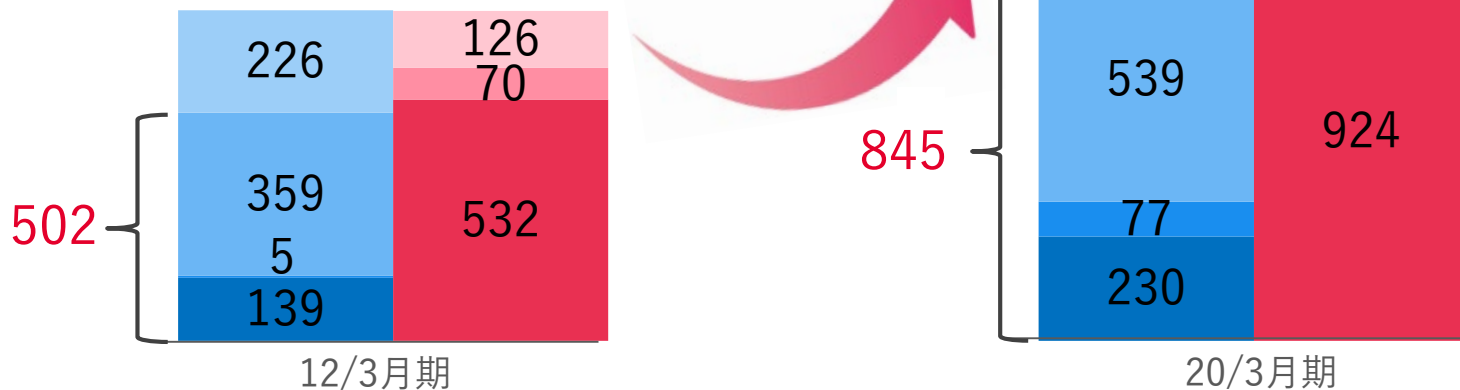
※連結営業利益に連結減価償却費等を加えた計算値



当社グループは将来の収益力を確保するための海外事業投資等により、のれんの償却費等、キャッシュの支出に影響を与えない費用が増加しており、EBITDAにより収益力を示しております。

総資産は12/3月期と比較して約2倍に増加

- 流動資産
 - 有形固定資産
 - 無形固定資産
 - 投資その他資産
 - 流動負債
 - 固定負債
 - 純資産
- (単位：億円)

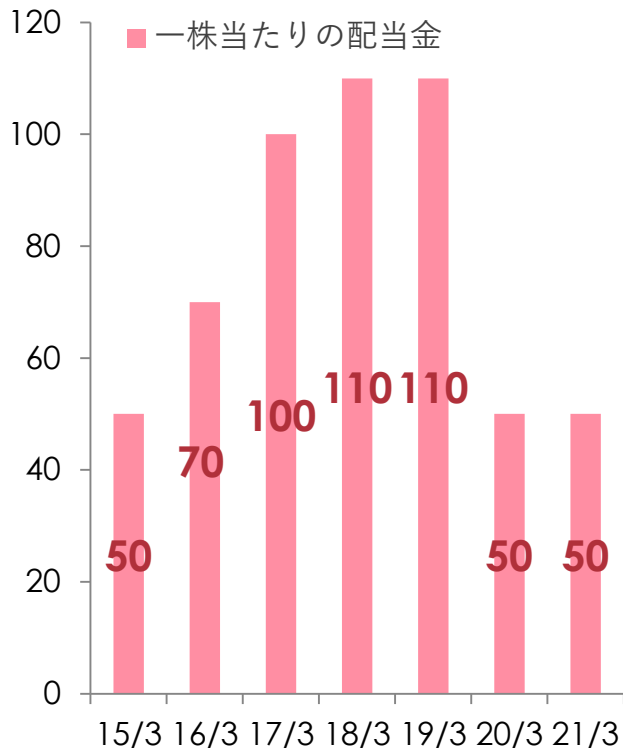


	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
自己資本比率(%)	71.9	60.4	61.9	57.6	58.9	63.1	62.5	61.1	58.4
ROE(%)	4.9	8.2	8.9	9.0	11.1	10.1	10.5	8.2	2.9
NET有利子負債(億円) (▲：NETキャッシュ)	3	72	16	43	33	▲6	▲81	37	44

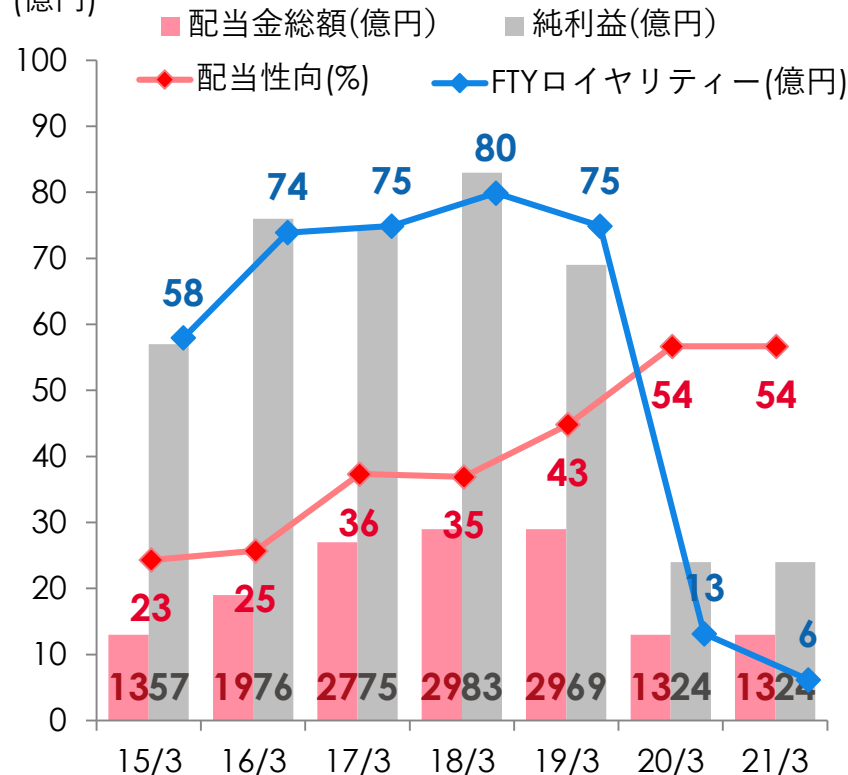


株主還元策

(円/株) 過去分含め株式併合後ベースで試算



(億円)



※ 総還元性向（当期純利益に対する配当金と自社株買いの合計金額の比率）：19年3月期 42.8%、20年3月期 148.2%
 20年3月期に関しては、配当金支払13億円に加え、100万株の自己株式を23億円で取得

事業計画（2020年3月期比較）



- 営業利益：—（主な内訳：砂糖事業 ▲2億円、フードサイエンス事業 +2億円）
砂糖事業は、コロナに起因する販売量減の影響はあるものの、
子会社北海道糖業で前期に発生した一過性損失の解消もあり、横ばいの見込み。
- 営業外損益：▲1億円
タイ関係会社の業績回復等により持分法投資損益+6億円。FTYロイヤリティー
仲裁部分について引き続き収益認識を行わない事により▲7億円。
- その他：長田工場解体工事費用減少。

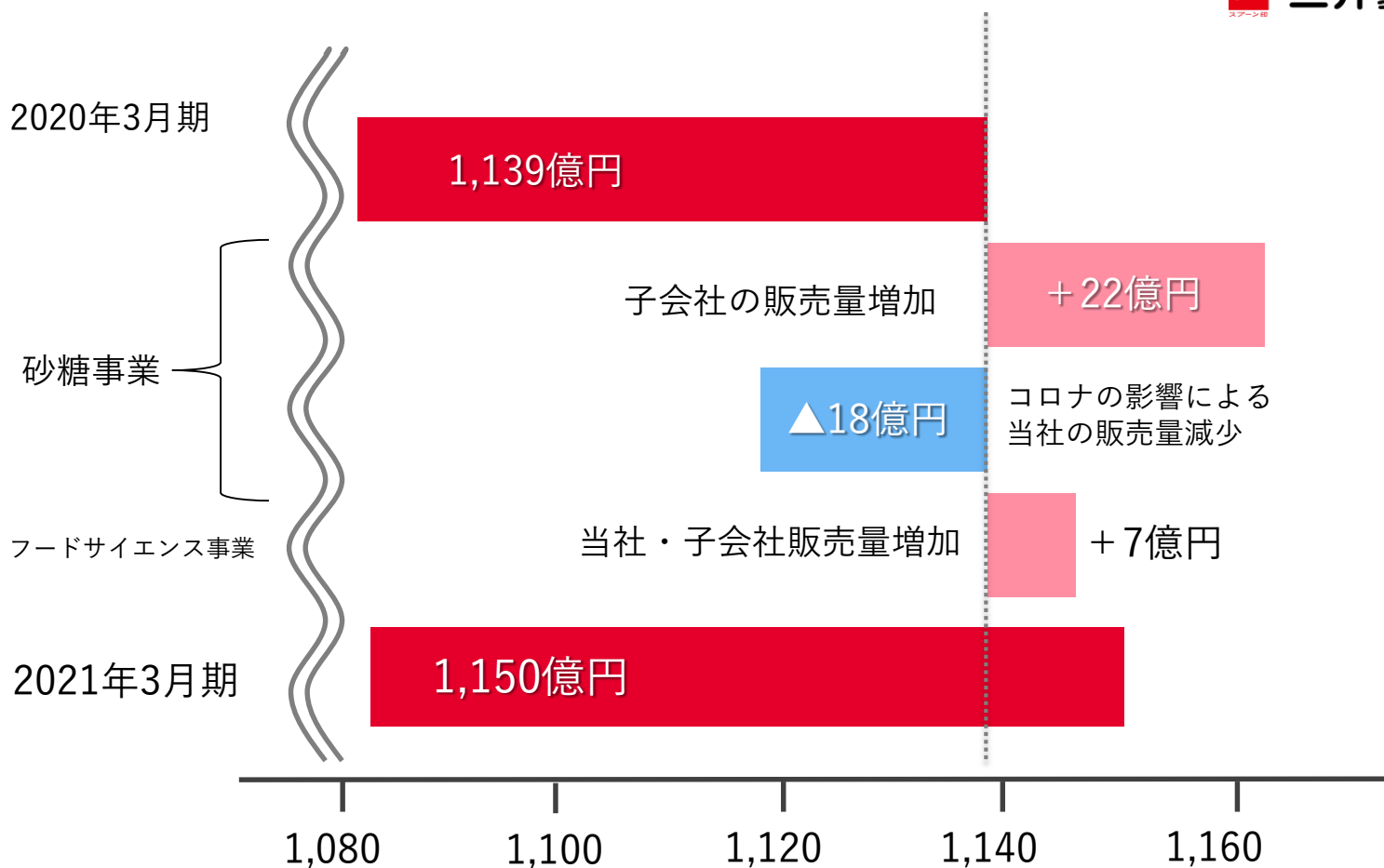
(億円)

	2021年3月期	2020年3月期	増減
売上高	1,150	1,139	+11
営業利益	48	48	—
売上比	4.2%	4.3%	
経常利益	48	50	▲2
親会社株主に帰属する当期純利益	24	24	—



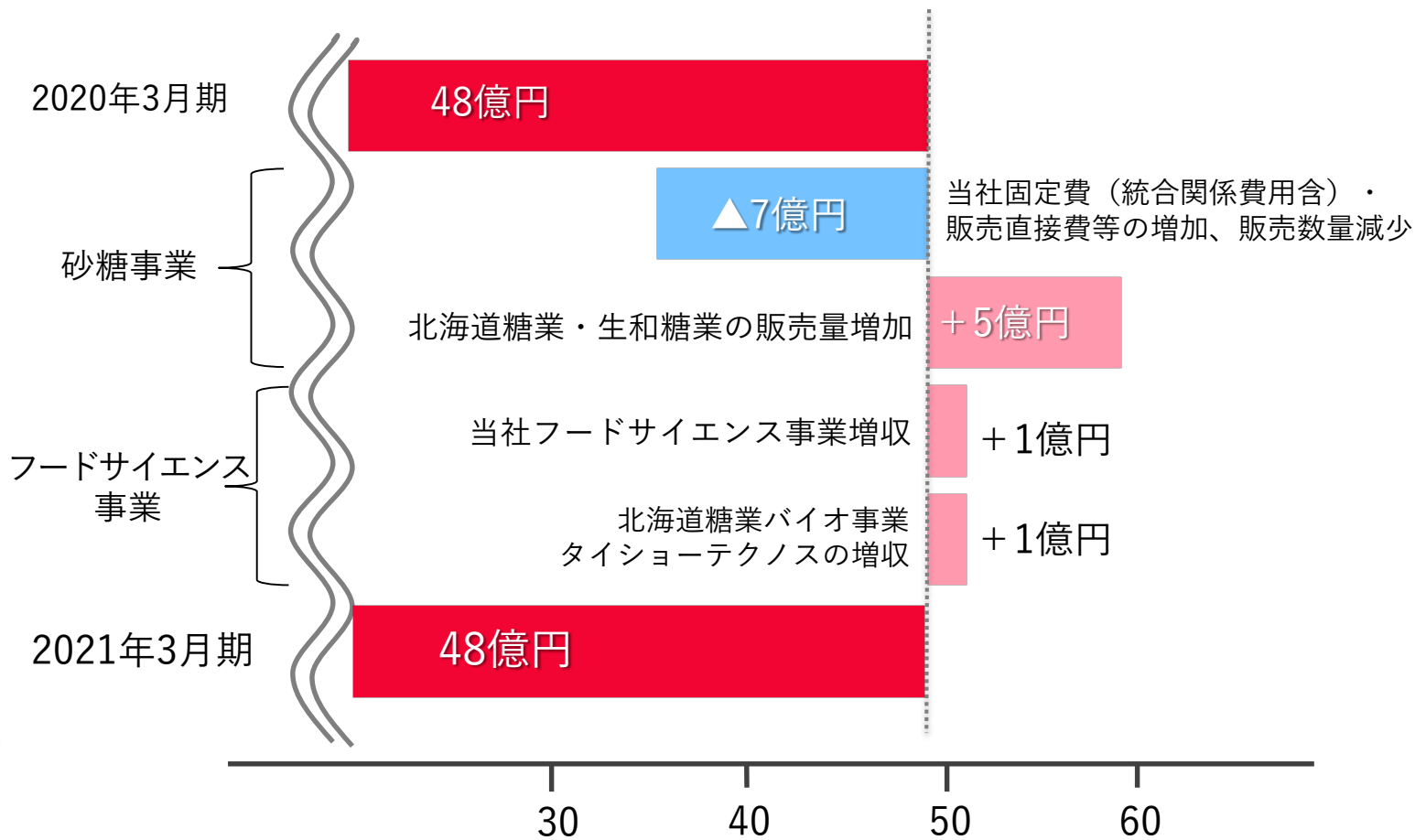
業績予想

2021年3月期事業計画
売上高



業績予想

2021
年3月期事業計画
営業利益



業績予想
**2021年3月期親会社株主に
帰属する当期純利益**

2020年3月期

24億円

▲7億円

FTYロイヤリティーに関し 仲裁で疑義が提起された部分は収益認識を行わない

 持分法投資損益
タイ関係会社の業績回復による

+5億円

特別損益 解体費用発生せず

+1億円

税金費用・非支配株主損益

+1億円

2021年3月期

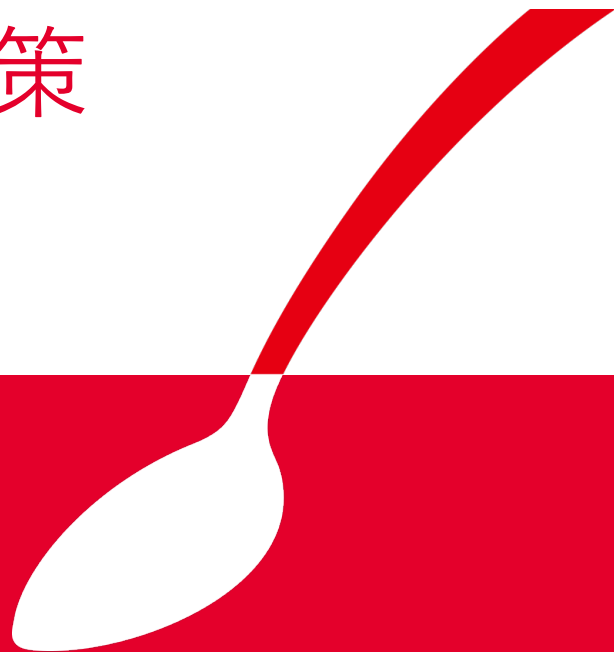
24億円





三井製糖株式会社

セグメント別の主な施策



基盤強化



各工場設備機器へのAI・IoT導入検討を推進、グループ各社との連携強化

- ・ 安定操業に向けた設備更新
- ・ Smart Factoryを目指した作業の自動化、高度化

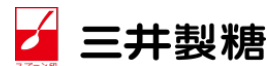


消費者ニーズ、健康志向に答える

- ・ 機能的な包装形態、高付加価値製品を拡充
- ・ 家庭内調理頻度の増加・料理世代の広範化も見据え、SNSを介しアプローチ



「食と健康」に係る食品素材ビジネス確立



進む高齢化、高まる心身の健康欲求 に応える



三井製糖

基幹的機能性素材、
 独自性の源泉

- ✓ 「食後血糖値の上昇を抑えるスローカロリーシュガー」が「機能性表示食品」として消費者庁に受理
 ⇒ スポーツコンセプトでの商品化、血糖コントロールによる機能性表示製品開発の提案推進



新規素材

機能糖、ボタニカル、微生物 etc.

- ✓ 新たな分野 (Beauty Fitness、メンタルケア、シニア等) へ展開



ニュートリー NÜTRI:

嚥下など介護分野で
 要求される特殊技術



タイショーテクノス



幅広い加工食品への
 具現化技術
 食品加工補助剤
 機能性補助剤



天然素材を通じて、世界の人々の健康寿命を延伸

施策

フードサイエンス
ニュートリション②

取り組みの認知度拡大施策

- Webサイト(アスリート向け、植物乳酸菌)開設
- SNSによる定期的な情報発信



<https://www.m-plab.jp/>

<http://www.palatinose.jp/purepala/>



<https://www.facebook.com/pg/palatinose.info/>

グローバルな事業展開の推進

施策

海外事業

BtoBからBtoCまで 砂糖のサプライチェーン構築へ

実績

- ・ 営口新北方制糖と家庭用小袋や各種加工糖の製造販売を目的とする合弁会社「遼寧長和制糖有限公司」設立(35%出資)
- ▶ 中糧糖業遼寧も順調に推移

計画

- ・ 中糧糖業遼寧はさらなる品質向上をてこに成長を見込む
- ・ 遼寧長和制糖も今秋より販売開始

成長著しい大市場

CHINA

高品質砂糖需要に対応

実績

- ・ 天候不順によるキビの収穫量減、粗糖相場低迷に伴う販売価格下落等による減
- ▶ Kaset Phol Sugarリニューアル工事はコロナの影響もあり遅延

計画

- ・ 販売方法改善による売上向上を目指す
- ・ Kaset Phol Sugarの一部工場竣工予定

高品質砂糖の供給拠点

THAILAND

アジアの戦略拠点

実績

- ・ SISが期を通じて収益貢献
- ・ 新商品共同開発/販売開始

計画

- ・ 家庭用/業務用新商品の開発
- ・ 新市場の開拓により増収

SINGAPORE

アジア販売ネットワーク

不動産

- ◆ 遊休地のリモデリングや開発による安定的なキャッシュフロー創出
- ◆ 工場及び関連跡地の開発
長田工場跡地・岡山工場北側跡地の整地化完了。有効活用検討
- ◆ 既存物件からの安定的キャッシュの創出

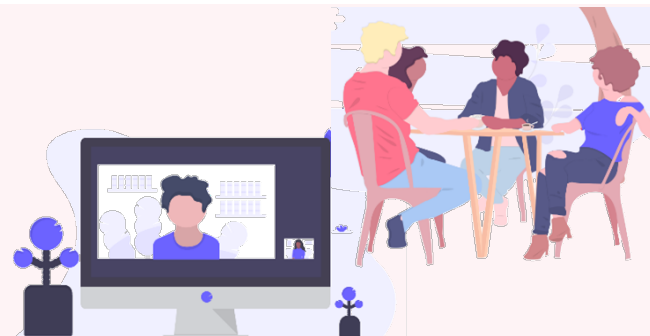
研究開発

- ◆ 糖・甘味素材分野から健康ニーズ、栄養課題に応える
「スローカロリーシュガー」が糖質としては初めて、食後血糖値の上昇を抑える「機能性表示食品」として消費者庁に受理
- ◆ サトウキビ研究：独自のサトウキビ由来素材の磨き上げ
サトウキビ増産計画への貢献
- ◆ 当社知見を活かした産学連携等 業態の垣根を超えた研究の推進（オープンイノベーション）



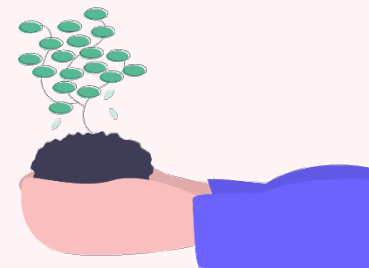
働き方の質的向上 と 当社事業を支える人材の育成

- 人材のグローバル化と多様性の尊重
- IoTを活用した柔軟な働き方の推進
- 「個」の強化による労働生産性の向上



持続可能な社会の実現に向けた貢献

- 自然がもたらす恵みを活かした本業のさらなる伸長
- 包装資材の開発を通じた天然資源の循環型活用
- 2030年度までにCO₂排出量26%削減（2013年度比）
2018年時点：2013年度比20%削減達成

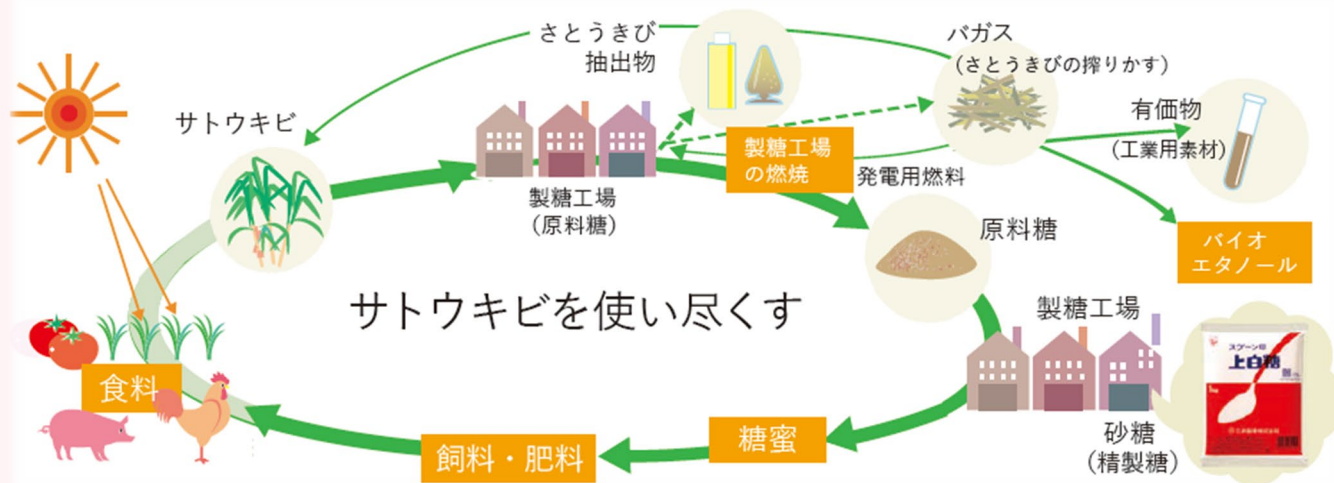
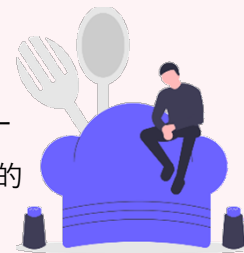


持続的発展の
ための取り組み
①



持続可能な社会の実現に向けた貢献

- すべての人が食を楽しめる世界を目指して
 - 1型糖尿病の子どもたちと家族で構成された「つばみの会」の支援
 - 社会貢献型株主優待制度を導入、認定NPO法人 日本IDDMネットワーク（1型糖尿病患者・家族の支援、根絶のための研究活動支援）へ寄付を実施
- 食の知識を生きる力に
 - 「食と砂糖」をテーマにした食育授業や、スポーツをする子どもに向けた栄養セミナー
 - 「全国小学生パティシエ選手権」や「神戸スイーツコンソーシアム」（障がい者の職業的自立支援）など、食を通じた教育支援
- 自然の恵みを最大限活用しながら 環境への負荷を低減し、次世代へ繋ぐ



持続的発展のための取り組み②



「変わらないために変わる」

当社は、大日本明治製糖株式会社との経営統合、及び、経営統合後の持株会社と日本甜菜製糖株式会社との資本業務提携に関し、協議を開始しました。（※ 大日本明治製糖株式会社：以下 大日本明治 / 日本甜菜製糖株式会社：以下 日甜）

本統合を、当社の経営理念「三井製糖は、安心・信頼・天然の食品素材を誠実に提供し、豊かなくらしに貢献します。」と経営方針として掲げる「変わらないために変わる」を進化・強化させる重要施策として位置付けております。

目的

■ 経営資源の集中・再配分による事業成長

国内供給体制の安定化・強靱化と共に、研究開発や成長分野へのポートフォリオ配分の強化を図り
堅固な収益基盤と国際競争力の強化を通して成長性を併せ持つ企業に飛躍

■ 地域農業をはじめとする砂糖産業の発展

甜菜やサトウキビといった日本の地域農業を含めた砂糖産業の健全な発展への寄与



Copyright © Mitsui Sugar Co., Ltd. All Rights Reserved.

スキーム

今後の協議の進展に伴い、変更の可能性がございます。

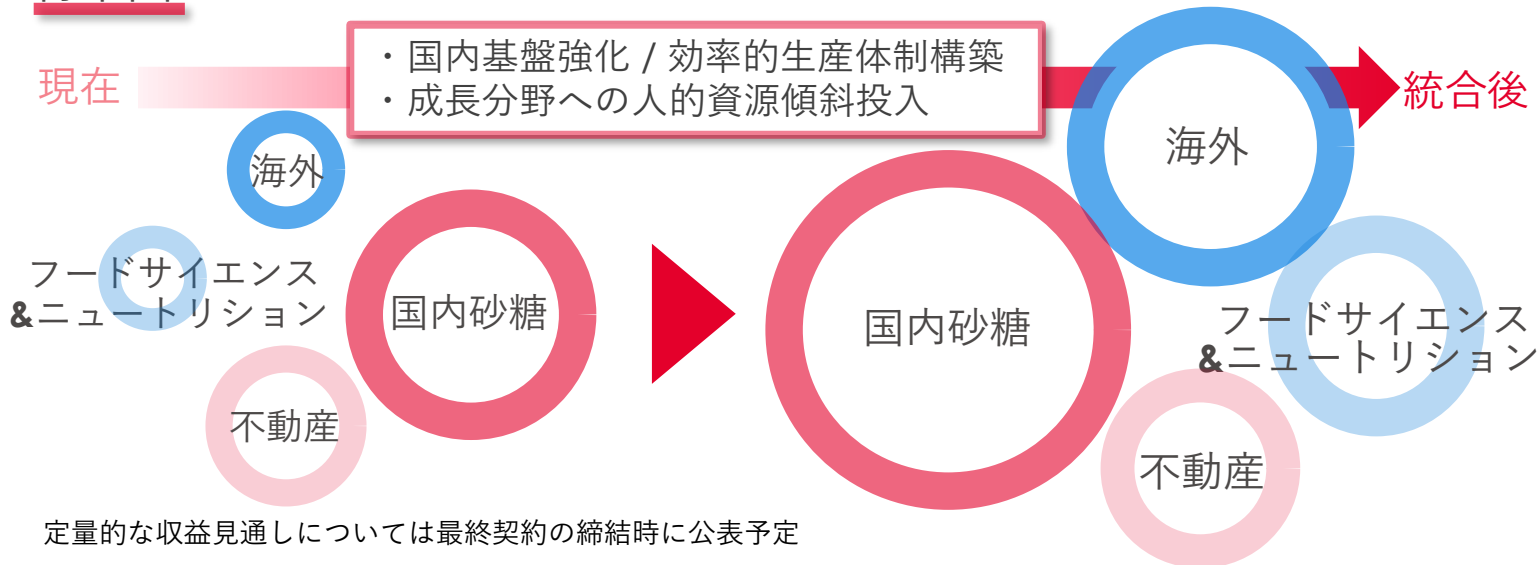
(1) 経営統合の形態

- ① 三井製糖と大日本明治は、三井製糖を完全親会社、大日本明治を完全子会社とする株式交換を実施
- ② 三井製糖は三井製糖の事業を承継する三井製糖完全子会社との間で吸収分割を行い、持株会社とする
※三井製糖完全子会社の商号を「三井製糖株式会社」に変更
持株会社は、三井製糖の現在の証券コード（2109）で上場を継続する予定（名称は未定）

(2) 資本業務提携の形態

- ① (1) の経営統合後、持株会社は日甜の総議決権の約 10%にあたる株式を取得
- ② 日甜も同等価値の持株会社株式を取得予定

将来図



スケジュール

※ 今後の協議の進展に伴い、変更の可能性がございます。

2020年9月末（予定）	最終契約の締結
2020年10月～2021年3月（予定）	三井製糖及び大日本明治 臨時株主総会
2021年4月1日（予定）	経営統合の効力発生日

資本業務提携については、三井製糖、大日本明治及び日甜が今後協議し、別途合意する時期に実施予定

IR 担当 連絡先

Info.Ir@mitsui-sugar.co.jp

お問い合わせは



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

